

2025年4月11日

滋賀県知事 三日月大造様  
県教育長 村井 泰彦様

## 危険な大阪・関西万博に子どもたちを招待しないこと、 万博中止を求める申し入れ

日本共産党滋賀県議会議員団  
団長 節木 三千代  
中山 和行

大阪・関西万博の開催まで2日と迫りました。日本共産党滋賀県地方議員団は、膨れ上がる事業費、パビリオン建設の遅れ、そして命の危険などの重大問題を指摘し、費用面でも、安全面でも破たんしている大阪・関西万博の中止と、関連する県事業の中止を求めてきました。しかし、滋賀県は県内の子どもたち（4～18歳）を、「教育旅行」などの名目で万博会場に無料「招待」する事業などをすすめています。「滋賀・体験の日」で子どもたちを動員しようとしています。

こうした中、日本国際博覧会協会は6日夜、大阪・関西万博の会場内で、着火すれば爆発の危険がある下限濃度（5v o 1%）を超えるメタンガスが検知されたと発表しました。同日、試験的に来場者を招く「テストラン」で会場を訪れていた元消防士で日本共産党の寺本けんた守口市議が検知を通報。消防署と協会の職員が改めて検知し、濃度が確認されました。大量のメタンが発生し続ける危険な万博会場であるにもかかわらず、「対策済み」「安全」としてきた姿勢が問われています。

会場となる夢洲1区では昨年3月、溶接作業中に発生した火花が可燃性ガスに引火し、爆発する重大事故が発生。1区は全体が現役の廃棄物処分場で、83本のガス抜き管からメタンガスが1日に約3トン排出されています（昨年12月の調査）。今回の件は、大量のメタンが管以外からも出ており、濃度も刻々と変化していること、対策が極めて難しいことを改めて示しています。

「いのちを危険」にさらしておいて何が「いのち輝く」でしょうか。それにも関わらず政府と維新の会が万博に固執する理由は、IR・カジノです。「国策」として進める万博を口実にインフラ整備などを進めさせ、カジノ業者の負担軽減を狙ったものです。

その危険な万博会場に、子どもたちを招待することは、絶対に認められません。

知事並びに教育長は、危険な大阪・関西万博に、子どもを招待しないこと、万博の中止を国に求めることを強く要望します。

以上